

CONTENTS ◆まちめぐり報告 ◆おくさわ今と昔  
◆奥沢の歴史を訪ねて ◆「これからの奥沢」報告 ◆活動報告 ◆会からのお知らせ

## まちめぐり報告 「目黒川崖線と代官山を歩く」

今回は散策のメッカ、目黒川及び歴史的意義のある史跡・文化財が並ぶ目黒川崖線と、大使館やお洒落な店舗、飲食店、邸宅が建ち並ぶ代官山界隈を歩いた。雨が心配され、多少急がせてしまったが、幸い降られることもなく、定刻に無事代官山駅に着いた。

先ず、池尻大橋駅から目黒川を渡り、プリズムタワー 5 階から屋上の目黒天空庭園に入った。草花・樹木を一本一本見ながら歩き、クロスエアータワー 9 階出口へ。結構高さがあるのでスカイツリー迄見渡せた。そんなに素晴らしいという程ではないかもしれないが、よく整備されている。

その後、目黒川崖線にある高級邸宅街を水平に貫く西郷山通りに行く。青葉台は新しい地名で、森が多いことから名づけられた。芸能人等の有名人が多く住むといわれ大邸宅が並ぶ。菅刈小学校の先、菅刈公園の日本庭園は江戸時代荒城の月で有名な豊後国岡藩藩主中川氏の抱屋敷にあった庭園跡を復元したもののだが、長らく国鉄の宿舎になっていた。

菅刈の名は小学校・保育園、公園等数カ所につけられているが、地名としてはない。かつて鎌倉時代には世田谷区東半分と目黒区西半分に荏原郡菅刈の荘があったといわれている。所謂荘園であるが治めていたのは源満仲であった。世田谷区にも菅刈谷戸と呼ばれていたところがあり、館があったらしい。千歳船橋駅そばには菅刈橋跡の史跡がある。

菅刈公園の隣は西郷山公園である。元々は菅刈公園と続いていたが、明治に西郷従道が兄隆盛の復歸したときの為に屋敷(屋敷は菅刈公園内)を建てたもので、日本館は焼失、西洋館は明治村に移築され、国重要文化財となっている。展望台から渋谷方面が一望できる。

西郷公園の正面口を出るとお洒落な旧山手通りが出る。お洒落な展示場・結婚式場の先を右折し、美

空ひばり記念館を見ながら目黒川方面へ。崖線沿いに進むとすぐ目切坂の入口に出る。そのまま直進すると郷(サト)さくら美術館に出るが今回は省略。目切坂は鎌倉道で、付近は森が多く暗闇坂とも呼ばれていた。途中に元富士講跡がある。

上りきったところに国重要文化財旧朝倉家住宅がある。元東京府議会議長・渋谷区議会議長を歴任した朝倉虎治郎の屋敷で、猿楽町の南西斜面を利用した回遊式庭園と関東大震災以前に建てられた数少ない大正期の和風住宅として貴重であり、60 歳以上は観覧無料になる。

その裏隣り、旧山の手通りに出ると代官山ヒルサイドテラスの建物が並び、その中に猿楽塚・猿楽神社がけげに残されている。

旧山の手通りを渡り、T サイト脇を通り、猿楽町の垢ぬけた店舗群を抜け、エレクトリックひまわりがそびえ立つ代官山アドレス・ディセに出れば代官山駅は目の前に見え、定刻に解散。昼食は各自。

(赤松)



(菅刈小学校)



(旧朝倉家住宅)



(代官山アドレスティセ)

# おくさわ今と昔

(このシリーズでは奥沢に長くお住まいの方、新しく移ってきた方々など、毎回2人の住民の方が登場し、この街にちなんだエピソードを語っていただきます。)

## 「木に遊ばせてもらって」

奥沢1丁目 和田好茂

9年間東北の花巻で勤務し、やっと奥沢に戻ってまいりました。定年になったら手仕事を思う存分やるのが夢だったので、奥沢文化祭で見た「浄彫会」の門をたたき仏像彫刻を始めることしました。木彫など自分でできるのだろうか、仏像とはどんなものなのだろうか、不安はありましたが始めて見ると、仏像彫刻はとても理論的で、現役時代のノウハウが活かせることに気づきました。髪の毛の生え際から唇の下までの長さの10倍が仏像の全長、腕の長さ、手の長さなどそれぞれの寸法が決まっております。仏様には人々をもれなく救うために指の間に水かきのような幕(縵網、まんもう)があり、足は偏平足で如来様の足の裏には教えを表す模様(千輻輪、金剛杵、など)があります。

面白い話もあります、寅さんで有名な帝釈天は女たらしのプレーボーイでお釈迦様にバツとして額に女陰の痣を付けられその後改心したそうです。愁いを持った面差しで有名な阿修羅は戦闘の神で、かなり乱暴者であったが改心して仏の従者になったようです。子供をさらって喰らった鬼子母神が子育ての守り本尊になるなど、仏様の弟子達はヤンキーのようにツッパリで、乱暴者だったり、さんざん悪さをし、改心した者が多いようです。よく聞かれることですが、仏様には性別はありません、女性のように見える観音様も同様です。

まだまだ面白いお話がありますが、それはさておき、仏像彫刻の用材は、ヒバ、檜、楠などが一般的です。白色で彫り易く木目の詰まった木曾檜が最適です。北斜面でゆっくりと数百年かけて育った木を彫らせたいわけですから大事に彫らなければなりません。また木の中に隠れておられる仏様にお出ましいただくわけですから、失敗したとって途中で放り出さずに何とか手直しして仕上げています。

次に大事なものが刃物です。削るとは刃物の形状を木に写しているわけですから、切れない刃物では削り跡が白くなったり、刃物の欠け跡が筋になったりするので時間をかけて研いでいます。貴重な木を、心を込めて研いだ刃物で削り仏様を彫りあげてゆく過程はなにもものにも代えがたい貴重な時間です。

仏様に感謝、木に感謝、刃物や砥石などの道具を作ってくださった方々に感謝しつつ、日々、木に遊ばせてもらっています。

## 「お祭り大好きな長老」

奥沢5丁目 高木茂次郎 (聞き手 鈴木仁)

高木さんは、大正14年生まれの92才、奥沢駅前で古物商「須賀屋」を商っている方です。大阪市旭区森小路に育ち、尋常高等小学校卒業後、婦人服店に丁稚奉公、徴用で大型機械の鉄工所、更に19年に徴兵され、終戦を迎える。帰還時、さいころ賭博で負けるが、その時の呼び込みは今でもよく覚えている。「さあ、はった、はった、はらなきや食えない提灯や、はって悪いは親父の頭、男は度胸、ぼんさんおきょう、年寄いんきよ」。

昭和22年終戦後初めて復員の人たちが集まり、旭区の大宮神社で一緒に地車を引いた。夫々有合せの着物で写っている記念写真に、若き日のお祭り好きの姿があります。



(2列目左から5番目が若き日の高木さん)

その年の末、現在の奥沢銀座商店街の今はない弁天様近くの須賀屋道具古美術店に就職した。昭和26年には、現在の地に営業を開始した。

奥沢神社のお許しを得て他の睦とは違う大蛇神輿を始めた時から、商店会(奥沢共栄会)のお祭りをリーダー役の一人として積極的に進めてきた。

大蛇は奥沢神社のお許しを得て作っているが、なかなかそのノウハウは後輩に伝わりにくい。ミニチュアを独力で作るのが習得法の一つ。でも作れる人は数人しかいない。高木さんは稲藁だけでなく、晒等其他の材料でも作ってしまう。しかも神輿のミニチュアや手拭で裃まで作る。また大蛇神輿の旗を手作りし、神輿の先頭を飾っている。

まだまだ高木さんの頭には多くのアイデアがお有りのようで、お祭りが長生きの薬だそうです。いつまでも長生きし街の仲間たちを引っ張って頂きたいと思います。



(晒の大蛇神輿と手拭裃)



(高木さん手製の旗)

# 奥沢の歴史を訪ねてXIX

## 奥沢史跡巡り④ まちなか観光東地区コース (iv)

今回は前回の続きで⑤東玉川神社から。東玉川は昔諏訪分(又は大平分)と呼ばれ、奥沢城大平氏の開拓地区で等々力の飛び地になっていた。旧目黒線が敷かれる以前、奥沢駅南側と北側は玉川村大字奥沢小字諏訪山であった。今も道路通称名や商店街、縄文遺跡等にその名が残され、奥沢とは関係が深い。私は確認していないが、今もなお諏訪神社が分社され、諏訪山のどなたかの庭に祀られていると聞く。現在も行政上奥沢まちづくりセンターの奥沢東地区として、奥沢西地区よりむしろつながりが多いということもある。

東玉川は山手台地荏原台の先端近くにあり呑川の崖線を形成し、かなり急な崖をつくり、小さな流れが2本呑川に注いでいる。

東玉川神社の直ぐ裏側は数mの崖があり、呑川の崖線に直結している。こういう地形だからこそ、諏訪神社を祀ったのかもしれない。

諏訪神社は一村に一社という明治政府旧内務省神社局の伊勢神宮を中心とする神社整理政策により熊野神社(現玉川神社)に合祀されてしまった為、住民にとって永く拠り所がなくなっていた。

昭和になって世田谷区発足に伴い、玉川村から独立、東玉川町となった。そこで諏訪神社再興の動きが起き、旧諏訪社敷地を得、さらに渋谷氷川神社の旧拜殿及び本殿を譲り受け社殿(寛永年間築造、区有形文化財)とし、東京府庁と協議、許可を得て野毛日枝神社を遷座、やっと東玉川神社として再建することができた。この日枝神社は寛永年間に井伊直孝が旧近江国日吉大社より勧請したと伝えられている。なお、境内社として、稲荷神社と御嶽神社、庚供養塔が祀られている。

東玉川神社から奥沢との境の道に出ると、角に⑥馬頭観音が鎮座している。このような観音様は密教系の住民により祀ってあるが、よく道しるべを兼ねている。道路拡張時に神社仏閣に引きとられることが多い。ここの観音様にも池上道と九品仏道と書かれている。

馬頭観音から左手に奥沢小学校があるが、ここが伝大平砦である。しかし、どう見ても平らで砦にふさわしくない。郷土史研究家は開拓の為の番小屋があったのではないかという。

(私たちの住むまち奥沢の成り立ちはどうだったのでしょうか、調査結果をシリーズで紹介していきます。)

馬頭観音からそのまま道路を渡り、奥沢一丁目に入ると、奥沢本村になる。本村というのは、等々力や川崎から多数の開拓者が奥沢に入植して奥沢新田村(現奥沢7~8丁目、尾山台)を作り、奥沢と名乗った為、区別する為に本村とよんだようである。本村のいわれについては、本村共同墓地(現大音寺管理)入口に建つ奥沢本村由来碑に記されている。書物に記載がないので詳しくはわからないが、元亀年間に住み着いて以来20軒程度の家が続いてきている。(赤松)



(東玉川神社)



(東玉川神社拜殿)



(馬頭観音)



(奥沢本村由来碑)

## これからの奥沢 まちあるき×意見交換会報告

世田谷区都市デザイン課は新たな風景づくり推進のため、「界わい形成地区」指定を目指した活動を奥沢交和会と共に進めています。

まず第一段階として「これからの奥沢」というテーマで、まちあるき(9/24)と意見交換会(10/14)が奥沢で開催されました。参加されたのは、1～3丁目の住民と周辺の関心を持つ方々で、区の担当者を含め40人近くの盛況でした。

「まちあるき」は4つのグループに分かれ、1丁目、2丁目、3丁目及び1～3丁目全体の地域を歩き、大小のみどり、建物、歴史、地形と言う観点から街の風景を見学し、奥沢の良さ、街の課題を出し合いました。

「意見交換会」では、「土とみどりを守る会」「石標保存会」による地域の活動紹介の後、3班に分かれ

前回のまちあるきの時に撮った写真を眺めながらのグループワークを行いました。奥沢らしい風景の写真を3枚選び、選んだ理由を付けて机上にならべ、風景づくりで大切にしていきたいこと、そのための工夫等の意見交換をしました。

出席者の多くは、奥沢らしいみどりや歴史の共通認識をお持ちと思われ、積極的なご意見も多く出ました。

「界わい形成地区」は風景づくりのあり方を住民が相談し区へ提案し、区が指定する制度です。10年ほど前区の風景づくり条例の改正を受け、土とみどりを守る会を中心に進めましたが、後に上位法である国の景観法に準拠する形になり遅れて具体化されたものです。(鈴木)

## 活動報告

●みどりの街づくりガイドの配布とチラシボックス設置：昨年度で完成した「みどりの街づくりガイド」の冊子を配布して普及に努めています。奥沢1、2、3丁目を全戸配布を終了しました。また奥沢交和会の理解を得てチラシボックスの設置をしました。

●4丁目・5丁目のつどい：2丁目主体の活動から地域拡大を目指して、昨年4丁目在住の鶴原さんのリードで4丁目会員のつどいを進め、「開かれた庭」を通じた交流が促進されましたが、更に5丁目へ拡大すべく4丁目・5丁目のつどいを2回行いました。

●奥沢2丁目に住んでいた著名なイラストレータ故細野修一の奥様が引越することになり、奥沢神社と大ケヤキの作品を、奥沢の住民の方々に展示できないかのご提案がありました。鈴木がご預りし、常設展示できる場所、地区のイベントでの展示機会を検討中です。ご関心の方は連絡ください。

## 会からのお知らせ

●チェリーセージメンテナンスを10月28日(土)[雨で中止]と11月5日(日)9時シェア奥沢(堀内宅)前に集合、2丁目有志宅前に設置させて頂いているチェリーセージプランターの土換え、剪定、施肥を行います。有志の方はぜひ参加ください。

●晩秋のつどいは、11月19日(日)午後1時半から、「シェア奥沢」で行います。お話しは世田谷トラストまちづくりの「三軒からはじまるガーデニング支援制度」です。コンサートはギター演奏を予定しています(詳細はチラシでご案内します)。

●街の落ち葉掃きを奥沢交和会との協働で行います。スケジュールは、・奥小周辺コース(11/30(木)、12/6(水)、12/9(土)奥沢小との協働)・海軍村大ケヤキコース(11/23(木)、11/26(日))・九品仏

川緑道コース(11/25(土)、12/3(日))の7回、時間は早朝ですが7:30-8:30(奥小生徒は7:30-8:00)です。(コース近隣に詳細チラシでご案内します。)

●土とみどりを守る会はいつでも新会員を募集しています。会の活動を支える会費は1口1,000円です。どうぞご協力をお願い致します。入会のご相談は下記へお寄せ下さい。

土とみどりを守る会 連絡先

世田谷区奥沢 2-32-11 堀内正弘 5701-5901

世田谷区奥沢 2-18-5 鈴木 仁 3723-6659

世田谷区奥沢 2-41-2 玉置敬子 3724-1077

ホームページ : <http://tsuchimidori.net>

e-mail : [info@tsuchimidori.net](mailto:info@tsuchimidori.net)